

1,000万円～1,500万円台の家

case.03

平屋

- 低コストで叶える快適で高性能な住まい
- 計画～メンテナンスを一級建築士が担当
- 地元の職人集団による丁寧な施工



- 1.2階建てから平屋に建て替えたKさん宅外観。駐車場もゆったり確保
- 2.明るく開放的な南面3室プラン。廊下等の無駄がない合理的な間取り
- 3.間取りの中心はオープンキッチン。庭を眺めながら料理ができる
- 4.主寝室は和室に。日中は3本引きの建具を開け、リビングとひと続きにし広々と
- 5.トップライトの効果で、室内の奥まったところも暗くならない
- 6.引き違い戸を用いた玄関。小窓を開ければ風が通り抜ける
- 7.多目的に使える洋室。お孫さんが泊まりきた時は客間として使用

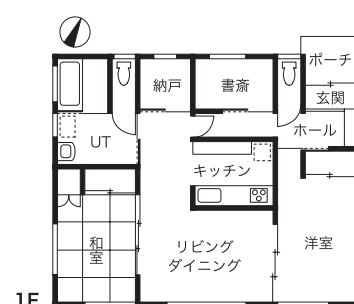
建築データ

- 構造規模 ■ 木造(在来工法)・平屋建て
- 延床面積 ■ 80.32㎡(約24坪)
- 主な外部仕上げ ■ 屋根/ガルバリウム鋼板、外壁/窯業系サイディング、建具/玄関ドア:断熱ドア、窓:アルミサッシ(ペアガラス)
- 主な内部仕上げ ■ 床/フローリング、壁・天井/ビニールクロス
- 断熱仕様 ■ <外張断熱>基礎・壁・屋根/キューワンボード40mm
- 暖房方式 ■ エアコン

杜の都 仙台いぐねのいえづくり研究会

問い合わせ先
設計・施工/杜の都 仙台いぐねのいえづくり研究会
仙台市青葉区水の森3-29-21-705
TEL.090-6541-7050

平面図



ら二体感のある間取りや高い天井の効果で圧迫感はなくありません。また、気密性・断熱性に優れた外断熱工法を採用。エアコンに頼らなくとも冬暖かく、夏は涼しい「えがお広がる暮らし」がスタートしています。

震災で自宅が全壊してしまい、建て替えを余儀なくされたKさん。できるだけ早く再建したいという思いとは裏腹に、検討していたハウスメーカー側の事情でなかなか計画が進まず、いつしか2年の月日が経過してしまいました。いつ着工できるかもわからないまま、待ち続ける間に建築費は高騰。業を煮やしたKさんは、解決の糸口を求めて建物よろず相談室を訪れます。そこで紹介されたのが、同社が事務局を務める杜の都 仙台いぐねのいえづくり研究会の「みやぎ・えがお広がる『共歩・共育の家』」でした。同研究会では、かつて仙台平野に多数点在していた屋敷林(いぐね)の発想を取り入れた家づくりに取り組んでいます。一級建築士が最初から最後まで責任を持って担当し、施工は地元の棟梁を中心とすることで、コストと品質を両立。作り手と住まい手が、共に「えがお」でつながることを目指しています。事務局の本郷誠さんは「何よりも大切なのは、予算も含めてお客様のニーズに寄り添うこと。その上で、より快適で高性能な家を追求するのが作り手としての役割」と語ります。

夫婦の暮らしにちょうどいい 安らぎ空間「共歩・共育の家」

完成したKさん宅は夫婦二人暮らしにちょうど良い平屋プランで、「書斎が欲しい」「トイレは2カ所」等の要望も、すべて予算内で叶えました。コンパクト設計なが